

# 経営比較分析表

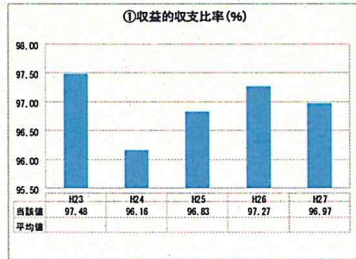
熊本県 相良村

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	
法非適用	下水道事業	農業集落排水	F2	
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり室敷料金(円)
-	該当数値なし	95.89	90.00	3,000

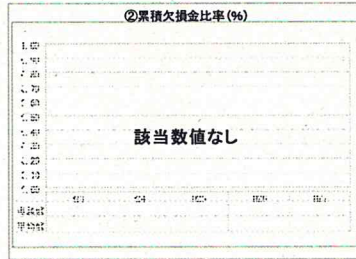
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
4,705	94.54	49.77
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
4,484	4.01	1,118.20

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
[ ]	平成27年度全国平均

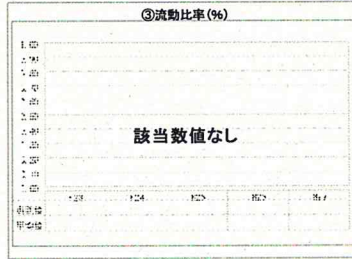
## 1. 経営の健全性・効率性



「単年度の収支」



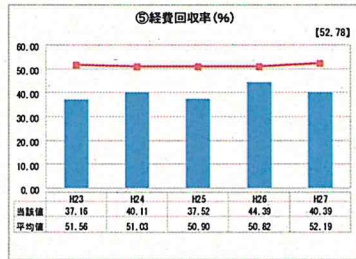
「累積欠損」



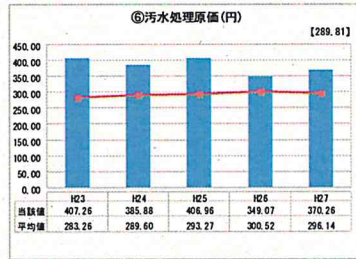
「支払能力」



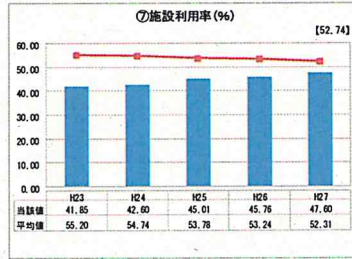
「債務残高」



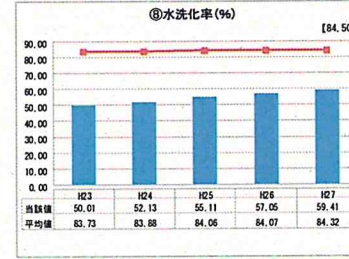
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

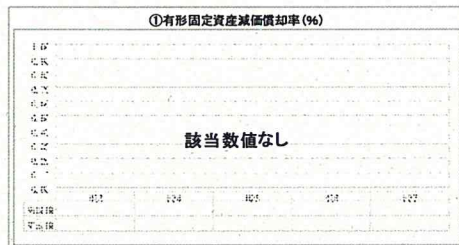


「施設の効率性」

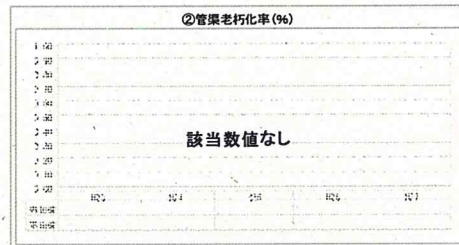


「使用料対象の捕捉」

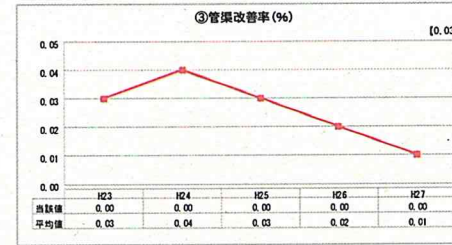
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

・企業債償還金が平成25年度をピークに減少してきてはいるものの、平成27年度においては1億8,200万円とまだ依然として高額である。さらに施設の維持管理費も光熱水費については年間1,200万円を超え、施設管理の委託料については年間約3,400万円と多大な費用となっている。  
また、本村の水洗化率は平成27年度においては、平成26年度より伸びたものの県の平均よりまだ、24ポイント以上下回っている。農業集落排水処理区域については、さらに加入を促進させ料金収入の向上を図る。浄化槽整備区域についても、補助金を利用した加入促進を行っていく。  
使用料については、近年高い徴収率の状況であるため、このまま維持していきたい。現在、年間使用料金収入は約3,700万円であるが、ほぼ同額を維持管理費として支出している状況であるため、今後、消費税の増税等も鑑み、使用料金の改定を行うかは今後の検討課題である。

### 2. 老朽化の状況について

相良村の農業集落排水処理区域の中で、中四浦地区においては供用開始から20年以上経過しており、処理施設や管路等老朽化が進んでいると思われる。平成27年度に作成した長期整備運営管理計画や今後実施予定の機能診断調査等において、老朽化の激しい箇所から計画的に更新・修繕を行っていく。

### 全体総括

相良村では、住民の高齢化が進んでおり農業集落排水施設への新規加入率が伸び悩んでいる状況であるため、いかに相良村に定住させるかが課題である。(接続リフォーム代金や毎月の使用料等年金世代には負担が大きいこと。)今後とも補助金等を活用し、さらに加入促進を進めていく。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成25年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。